

# 五十五万石

近畿税理士会和歌山支部

発行

和歌山市湊通丁北1丁目1-3

TEL.426-3600 FAX.424-1474

<http://www2.kinzei.or.jp/wakayama/>



旧国鉄土幌線タウシュベツ川橋梁(北海道河東郡上士幌町)

東大雪を南北に貫く国道273号から分岐したダート林道を約4km走った先に現れる「旧国鉄土幌線コンクリートアーチ橋梁群」の中で最も有名で美しい橋。

昭和30年に発電用人工ダム湖である「糠平湖」が造られたことにより、橋梁周辺は湖底に沈んだが、季節や発電により水位が劇的に変化するため、橋梁全体が水に覆われてしまう時期もあれば、水位ゼロとなり全体が見渡せる時期もあり、その様子から「幻の橋」とも呼ばれている。水没時の水圧、結氷期の氷による外圧、凍結・融解を繰り返し凍害にさらされるという極めて過酷な環境にあるため、その劣化は著しく、いずれ崩壊する運命にある。

なお、「旧国鉄土幌線コンクリートアーチ橋梁群」は平成13年、北海道遺産第1回選定分25件のうちの1つとして決定・公表された。

## 目次

新年のご挨拶	2
新年のごあいさつ	2
年男・年女のメッセージ	
年男のひとりごと	3
健康に感謝して昔を想う	4
還暦に寄せて	4

## 次

韓流ドラマを通して	5
ライブ活動	6
我が人生の一こま一こま	7
支部行事風景	9
新入会員等紹介	10

## 新年のご挨拶



和歌山支部長 稲田 稔彦

新年あけましておめでとうございます。

平成21年の年頭に当たり、支部会員の諸先生方に謹んで新春のお慶びを申し上げます。

先生方には日頃会務運営に深いご理解とご協力を賜り有難く厚く御礼申し上げます。

一昨年からのアメリカの低所得者向けの住宅金融のサブプライムローンに起因する金融不安は、昨年更に規模を大きくし、リーマンブラザーズの破綻等、証券・金融業界に多大の損失を与えました。

これを立て直すべく、アメリカ政府を初めとする諸外国の政府の強い意志による金融支援により、1929年の世界大恐慌の再来の防止に努めています。

実体経済は先行きに対する不安心理から買控え、企業の投資先送り等により、景気後退は明らかであります。行き過ぎた投機による原油の高騰は、昨年年初から下落に転じました。また、アメリカでは、オバマ新大統領も決まり新たな政策により明るい展望も開けるでしょう。

我が業界では、推奨されております国税電子申告・電子納税（e-Tax）は大きく進展しましたし、遅れていた市町村の電子申告も、本年から和歌山市を初めとして県下の三分の二の市町村で可能となります。

電子申告の利便性はさらに進展し、事務の効率化が図れます。

本年から登録政治資金監査人の制度が始まります。これには税政連が大きく貢献しました。又本年は、衆議院議員の選挙の年になります。今後を見据え繁栄と導く政党を選択しなければなりません。

政治連盟の収納率も平成19年度の義務研修受講目標達成率でも、前年に引き続き、当和歌山支部は多人数の支部中では最も成績の良い支部です。他支部の模範となるでしょう。これも、皆様方のご努力のおかげと感謝致しております。

本会の支部交付金の改革に呼応して、今年の定期総会にて支部会費増額をお願いしましたところ、会員先生方の暖かい御配慮により無事通して頂きました。お陰様で増員により事務局の負担も軽減出来ました。

最後になりましたが、支部会員先生方のご健勝とご繁栄を祈念致しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

## 新年のごあいさつ



和歌山税務署長 折井 卓

新年あけましておめでとうございます。

平成21年の年頭に当たり、近畿税理士会和歌山支部の諸先生方に謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中は、税務行政に多大のご理解とご協力を賜り、紙面をお借りして心から厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、日本人の北京五輪での活躍やノーベル賞受賞など明るい話題もありましたが、日本経済に目を向けますと、世界的な金融危機により急激な円高や株価がバブル崩壊後の最安値を更新するなど非常に厳しい状況にあり、先行きの不透明感が漂っております。

このような経済情勢下において、私ども税務行政を取り巻く環境も大きな変革の時期にあり、ご承知のとおり、「e-Taxの普及拡大」や「電話相談の集中化」、あるいは「納税者窓口関係事務の一本化（通称：内部事務の一元化）」などの新たな施策を推進しておりますが、いずれも、IT化などの時代の流れに伴って、納税者サービスの更なる向上を図るとともに、税務署側にとりましても事務の効率化を推進する、ということを実践しているものであります。

特に、諸先生方には、一昨年来、e-Taxの普及拡大に向けてのご協力を強くお願いしておりますが、引き続き、近畿税理士会和歌山支部をはじめ関係民間団体との連携を図りながら、積極的な取組を推進してまいりたいと考えておりますので、より一層のご協力をお願い申し上げます。

ところで、間もなくしますと、いよいよ私ども税務行政に携わる者にとって非常に重要な「確定申告」の時期を迎えることとなります。平成20年分確定申告期は、引き続き、e-Taxの利用促進を軸として自書申告の定着を図るとともに、納税者サービスの更なる向上に努めてまいりたいと考えております。

近畿税理士会和歌山支部の先生方におかれましては、確定申告期を円滑に乗り切れるよう、引き続き、一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに当たりまして、近畿税理士会和歌山支部のますますのご発展と、会員の先生方はもとよりご家族皆様のご健勝、ご多幸を心から祈念いたしまして、新年のごあいさつといたします。

2009 迎春



## 年男・年女のメッセージ



## 年男のひとりごと

中村 善胤

明けまして平成21年干支では丑の年、私は大正14年生れ人生で7回目の年男を迎えます。

大正14年と云えば、満1才で昭和元年。以後私の満年令と昭和の年数が同じになります。物心が付き初めた頃から昭和の節目と云うか変化の時期が年令と共に思い出されます。

昭和7年、小学1年生、この年の2月22日の午前5時、上海事変で、廟行鎮の敵陣を爆破した、肉弾三勇士があり、それを称える歌が出来ました。毎日「廟行鎮の敵の陣 我れの友隊すでに攻む」から始まる歌を口ずさみながら登校したものです。

昭和8年2年生の頃、国際連盟を脱退し、無条約時代を迎えた。帝国艦隊の精鋭第2艦隊が、和歌浦湾を圧して入港し、艦載機が和歌山市上空を編隊飛行し、私達2年生は遠足で和歌浦の裏山に登り、第2艦隊を見て来ました。旗艦愛宕が特徴のある大きな艦橋を見せて中央に陣取り、同型の重巡洋艦数隻、英国民をして飢えた狼と恐れられた妙高型重巡洋艦4隻をはじめとして最新鋭の吹雪型駆逐艦で編成する水雷戦隊の艦が多数、和歌浦湾一面に、展開していました。軍楽隊が軍艦マーチを吹奏して市中を行進し、私達は期せずして、軍国少年に育てられ、少年倶楽部等の雑誌で軍艦の名称、航空機の型式等を覚えて行きました。

昭和12年7月盧溝橋事件が発生し日中の全面戦争に突入した。

昭和13年4月中学校入学、木綿の制服が無く、私達からスフ製の制服で水に弱く洗濯すればすぐ破れるものでした。またゴムが無く運動靴も手に入りにくくなって行きました。

昭和16年12月太平洋戦争に突入しました。昭和18年4月和歌山商高に入学。太平洋戦争は、17年中は、勝利の連続でしたが、18年に入ると、ガダルカナル島を中心としたソロモン群島の戦闘になり、一進一退の繰り返し、それでも遠い処の戦闘であり、学校生活にはまだ余裕がありました。運動会、学園祭も楽しく、勉学にいそむ事も出来ました。しかしこの方面の戦で米軍はレーダー射撃を完成し、暗夜でも敵をレーダーで確認し的確に砲撃する事が出来たのです。この方面の主力であった、我が第2艦隊は大きな打撃を受け、かつて和歌浦湾を圧して威容を誇っていた艦隊は壊滅的な打撃を受けていたと思われます。米国との間の格差がいかにかい大きいものだったか、計り知れないものを感じました。昭和19年に入ると、サイパン島が失陥し、2年生は時勤労働員となり、軍需工場で働くようになり、工場の寮に入って2交替で夜勤も務めました。学校は、高等商業学校から経済専門学校となり、次の生徒からは工業専門学校と替り、徴兵年令は19才に引き下げられ、私はこの年の11月には学徒兵として入営し直ちに中支に出征し、20年の1月には現地に着し、20年8月15日終戦を迎えました。最初にして最後の19才現役兵として終わりました。

昭和21年、米軍の艦首が開く上陸用艦で佐世保に上陸し、丸2日かかりで、和歌山駅に帰り着きました。

和歌山市は全焼していました。全く知らされていなかったもので、ただ呆然と日没の自宅の焼跡に立ちつくしていました。地下防空壕で生活しておられた近隣の方が「びっくりしたでしょう。無事に帰って来られてよかった」と喜んでくれ、家族の居場所も夜が明けたら教えて上げるから防空壕へ泊って行けと、その時の嬉しかったこと、この歳になっても忘れられません。

昭和21年春、復学したいと学校へ行くと同級生は皆卒業し学校からは、卒業証書と商業と英語の教師の免状を渡されました。

衣食住は無の状態。この時が21才その後、戦後激動の昭和と共にこの歳まで何とか暮らして来ました。年男はまだまだ元気で人生の8回目の年男を目指して生きて行こうと思います。

## 健康に感謝して昔を想う

岡田 泰介

先日、孫が防災頭巾（昔は防空頭巾と言ってました）を被って遊んでいたのを訳を聞くと、今日は防災の日で保育園で、これを使って地震が発生した時の避難訓練をしたとのことでした。思い出すのは、私が国民学校（昭和18年）へ入学した時には、すでに太平洋戦争に突入をしていて、防空頭巾をかぶって集団登校をしたのを思い出します。毎日毎日空襲警報の音におびえながらも子供らしく暗くなるまで楽しく遊んでい

ました。戦後急に生活が変わり兵隊さんがいなくなりアプレアベックという言葉が流行ったり、進駐軍のジープや黒人兵の顔の黒さにびっくりしたのを、昨日のこのように思い出します。また、着る物や食べ物は大変悲惨でした。つぎはぎだらけの足袋・トウモロコシの粉のパンやサツマイモのふかしたものが主食でした。しかしなんとか生き伸びました、早いものでもう60年も前の話です。

振り返って

私の生まれた1937年（昭和12年）とはどのような年であったか一寸調べてみました。

- 国 際………盧溝橋事件（支那事変） 日中戦争——南京虐殺
- 国 内………林内閣 近衛内閣
- そ の 他………サントリーの角瓶 人針・慰問袋 戦艦大和起工
- 第一回文化勲章 横山大観 幸田露伴
- 東京後樂園球場 完成
- プロ野球 春／巨人 優勝 秋／阪神 優勝
- 相 撲 春秋／双葉山全勝優勝
- 流行った歌………人生の並木道 妻恋道中 山寺の和尚さん かもめの水兵さん
- 小 説………墨東奇談 暗夜行路 雪国 路傍の石
- 誕 生………江利チエミ 美空ひばり 雪村いずみ 河野 洋平 橋本龍太郎
- 小 淵 恵三 加山 雄三 伊東 四朗 緒形 拳

私には、どれをとっても昔懐かしいことや人ばかりです。気分は還暦ですが、早や古希を過ぎてしまいました、後に残すものが何もありませんが、幸い今のと

ころ健康ですので、戦争を知る最後の世代として、戦争の悲惨さとその後の復興の軌跡を、孫子の代まで語り続けたいと思います。

## 還暦に寄せて

下林 善信

昭和53年に登録をして30年が経ちます。昨今、30周年や40周年などの周年事業が行なわれています。そんなにも時間が経ったのかなあとありますが、冊子や写真で振り返ってみますとそれらが時の経過を教えてください。この間様々な人と出会い、色々教えられ又学び、過ごしてきました。開業当初“ゴルフをするのも仕事のうち”と教えられ、そのゴルフ場での出会い

が縁のもとで、専門学校の講師を紹介され収入の少ない時代に多いに助かりました。最近、縁についてと言う話を聞きました。縁とは本来の意味は縁飾りという意味だそう。布を折りあって縁が作られます。布のもと糸と糸が交錯し合って布になります。互いに交錯する模様を縁と言うのだと。ところが現代、我々の付き合いはお互い同士ばかりでなく第三者などを通じて触れ合う形という意味になっていると言う話でした。

縁に纏わる奇遇な話を紹介します。

今年度の協同組合の研修会の講師を検討していたところ、小規模共済の団体からの紹介でY弁護士に選定しました。数日後ゴルフ練習場に行くと、知人のM司法書士が居合わせ、「Y弁護士より今度和歌山に行くの」との電話があったと言う、「誰から依頼されたの」と聞くと私からだと言う、「何で知っているのですか?」と尋ねると「Y弁護士は大学時代の同級生です」と話した。紹介してもらい、電話で講師の依頼をした時まさか、このようになるとは想像もしなかった縁が円になっていきます。これが現代版の縁と言うものかなと思われ

ます。

会員の皆様もこのような経験をされたことがないでしょうか?

団塊世代も還暦を迎え競争社会から解き放たれて自由の身になっているものの未だにランクを気にする性格が直りません。これからはスローライフを楽しみたいと思います。



## 韓流ドラマを通して

宮田 幹夫

もう数年前になりますが、私のところと取引を始めたという目的で、某保険セールスの方（以下「Yさん」という）が月一回立ち寄られていました。

その頃、関与先へ出向くたびにそこの女性事務職員の間で、「ヨン様」「チェ・ジウ」がどうのこうのと、例の「冬のソナタ」ブームでビデオの貸し借りを目の当たりにしておりました。その際、私は「そんなの面白いのかなあ…」と他人事に思っており、テレビで何度も再放送されたのに、全く注目せずにいました。

さて、ある月にYさんが、「先生、奥様と一度韓国の映画を見ませんか?」と言って、チャ・テヒョンとチョン・ジヒョンの「猟奇的な彼女」の映画のDVDを渡されました。

地下鉄の車内で、酒に酔った女子学生が周りの乗客に吐瀉するところから始まり、「やっぱり韓国は、合わないなあ。」と思い、実のところ最初の20分程度しか見ていませんでした。次の月にYさんがお越しになったときに適当な返事をしたもので、「次はこれよっ。」と「冬のソナタ」を渡されました。因みにこの「猟奇的な彼女」を最後まで見たのは去年のお正月であり、最後の10分くらいでとても感動的な結末を迎えます。「冬のソナタ」はその前の「猟奇的な彼女」と異なり、ヨン様・チェジウの演技に引き込まれてしまいました。微かなすれ違い、友人との関係等、ドラマですがハラハラしました。

それからというもの、次から次へとYさんお勧めのドラマを見ることになりました。

初めの2,3作品は日本語吹き替えでしたが、それではどうも口の動きと台詞が一致せず迫力を欠くので、途中から字幕ものに代えていただきました。Yさんと一緒にDVDプレーヤーを買いにも行きました。同じ俳優が出演しているもの、監督が同じもの、歴史物など…それからもう3年以上経ちますが、もう40本以上

の映画やTVドラマを見ていると思います。先日新聞で片面1ページ全部が韓流ドラマの広告を目にしたのですが、そのうち半分以上見た記憶があり自分自身でも呆れてしまいました。

韓流ドラマ独特の、出生の秘密・貧富の差・不治の病を題材にするものも多いですが、私たち日本人と見た目そんなに差異がなく、韓国語もこれだけ聞いているとごく少しですが、聞き取れてきます。「○○(姓)氏」を「○○(名前)ッシー」、「約束」を「ヤクソクッ」と言ったりします。わりと坂道が多いようですが、立派な建物と古い木造家屋が混在しています。私はとくに韓国の俳優のファンになろうとか、韓国語を勉強しようとかは思いませんが、日本に一番近いこの国とはどんな国かと興味をもちました。そこで、Yさんのドラマを拝見しつつ、インターネットのアマゾンで旅行ガイドブック、韓国で探す昭和の建物、韓国国定歴史教科書、司馬遼太郎氏の「街道をゆく」シリーズの「韓をゆく」、つい最近では蓮池薫氏の「蓮池流韓国語入門」等を注文して読みました。

色々読みましたが、日本人と似ているのは見た目だけのようです。韓国人は自身の「本貫」（いわば出身地のこと）を大事にしており、自身の関係者（身内や友人）なら、「ウリ（私たち）」として食事をおごったり親しくするのに、それ以外なら道ですれ違いざまに肩が当たっても平気の様です。何でも自分が中心で、控えめな行動をとりがちな日本人とは、とても相容れないように思います。インターネットも日本より進んでいて、インターネットの書き込みが原因で傷ついた女優が何人も自殺しています。

韓国では儒教が生活文化の根源にあり、年長者を敬い、長男に対する両親の思いは大変なようで、結婚も難しいようです。さらに、両班（「ヤンバン」という支配階級の人）が長年政治経済において国民を支配してきました。1人の人が大官になると、身内（といっても十親等くらいまで入るそうです）の年長者がやってきて、礼をつくしてその身内に利権を分け与えな

ればならない。だから自分の担当の領地から摂取できるものは限りなく摂取して身内に分配するのみで、その地の地場産業を発展させるとか、領民のための政治をするとかは少なかったようである。

さらに古代、韓半島の三国（新羅、高句麗、百済）ができて以来、陸続きの親分の中国の影響を受け、「小中華思想」（中国が一番、次は韓国、三番が日本）という考えが儒教思想とともに国民に染み込んでおり、そのために三番目の日本が上位の韓国を併合するなど絶対に認められず、たとえ謝ったとしてもその人の孫子の代まで敵視するようです。

ドラマでは、「いつか楽園で」のリン・ユリをかわりく思ったし、「私の名前はキムサムスン」では笑いこけましたが、やはり外国、相互理解はまだまだ先の様に思います。

「ソウル1945」は70巻以上の長編ですが、これを見ると日本がどのように韓国と関わってきたかが、韓国併合から朝鮮戦争後まで韓国側の思想で描かれており、

閉口したくなる場面もありました。また、「第五共和国」では朝鮮戦争後から盧泰愚大統領の時代までがドキュメント形式で理解できます。

一度は旅行しようと去年パスポートの交付を受けましたが、色々な本を読むほどに韓国へ行こうとは思えなくなってきて、未だ韓国へ行く気になりません。友人に「百聞は一見に如かず」だと言われているので、そのうち一度は暮らしぶりを見に行きたいと思います。

昭和36年4月生まれの私ももう人生の過半が「税理士」業に浸っております。当然本業は「税理士」として頑張りますが、「副業」で歴史や近隣の国との関わりを勉強したいと思えます。なお、本文中の韓国に関する感想は私の個人的なものであることをお断りしておきます。



## ライブ活動 下津 正也

私は趣味でピアノを弾きます。5歳から10歳までピアノを習っていました。でも楽譜を正確に弾かなければならないプレッシャーに耐えられず習うのを辞めました。辞めてからは自分で歌謡曲の楽譜を買ってきて弾いていました。特に当時はサザンオールスターズがカッコよくてモノマネをしながらピアノを弾いていました。

18歳から大学のクラブでバンド活動をはじめ、和歌山を中心にいろんなところで演奏をしました。27歳で税理士試験に集中するためライブ活動を一切辞めたのですが、去年から娘がエレクトーンを習いだしたのをきっかけに、娘に良いところを見せようとピアノの弾き語りというスタイルでライブ活動を再開しました。

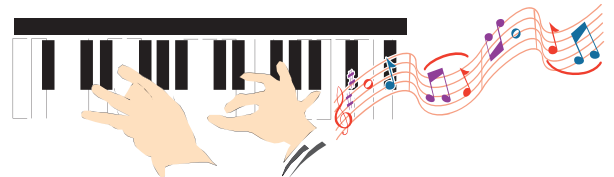
去年は年間4回ライブをしました。その中には7月5日のCLEANわかやま“ふるさとをみがこう”キャンペーンや11月22日のマジカルミュージックツアーへの出演がありました。

CLEANわかやま“ふるさとをみがこう”キャンペーンは去年の7月7日地球温暖化問題を最大のテーマに、北海道の洞爺湖で主要国首脳会議いわゆるG8サミットが開かれましたが、そのサミットが開かれる時期に地球温暖化防止について和歌山でも考えようというものでした。

マジカルミュージックツアーは新聞にも掲載されていましたが、「1日中音楽漬け」を合言葉にわかやま

を元気にしたいということで和歌山城西の丸広場や和歌山市中心部の複数のライブハウスで47組が出演する音楽ライブフェスティバルでした。

私は日常税理士として社会と関わりを持っていますが、1個人としてこのようなイベントに誘って頂けたことに感謝しましたし、社会参加出来たことに充実感を持ちました。また娘に良いところを見せられたのがとてもうれしく思いました。今年もチャンスがあれば、いろんなところでライブをしたいと思っています。



**丑年生まれの方は22名です。**  
年代順は

	男性	女性	計
大正14年生	4名	—	4名
昭和12年生	4名	—	4名
昭和24年生	4名	2名	6名
昭和36年生	2名	1名	3名
昭和48年生	5名	—	5名
計	19名	3名	22名



## 我が人生の一こま一こま

中嶋 源次

「朝は希望に起き、昼は報恩に働き、夜は感謝に臥す。今日一日の生業の積み重ねが、我が人生である。」我が人生の一こま一こまを、応召した軍隊生活を想起して、大阪信太山の野砲兵第四聯隊勤務、中支（中国）上海、九江司令部勤務、熊本（建軍）飛行場大隊勤務、等について述べて見たいと思います。

昭和十二年五月、和歌山市岡山町にあった公会堂で行われた徴兵検査で、第一乙種補充兵となり、現役兵をまぬがれたと思っていたところ、翌十三年八月末、赤紙の召集令状を受取り、九月一日、大阪信太山の野砲兵第四聯隊第二中隊（立川部隊矢野隊）に入隊した。第二班で、班長は軍律特に厳しい九州大分県出身の目の鋭い、臼杵軍曹で、竹内上等兵と松本一等兵の指導の許に、毎日起床ラップと共に飛び起き、毛布をたたんで外に整列する。一名でも整列時刻に遅れると、班長の革のスリッパで、全員左頬にパンチを受ける。

また、班長は「最近機敏さに欠ける。たるんでいる。」と云って、卵大の馬糞をガーゼに包んで右手に持って、班員二十名の一人一人の額に、印判を押すように押しつけて終り、「すぐ顔を洗って出直して来い」と命令した。五十米程先の洗面所へ駆走りで行き、顔を洗ってすぐ引返し整列すると、「よし」と云って班長室へ入って行った。スリッパで毆打すれば、自分の手は痛くないが、馬糞の罰はゴム手袋はなく、手が汚れると思うが、誰も知らない、云わなかった。

又「馬糞の罰」かときさやく声を聞いたことは二三度あったと思います。

馬小屋まで駆足競争で、馬を引き出し寝わらを、前が見えない程両手で抱きかかえて軒に出し干す。直ちに馬の手入れ、先ず四脚の蹄鉄に詰まったごみを鉄へらでかき出し脚の裏を洗い蹄鉄油を塗る。次に刷毛で全身をマッサージして、餌を与えて兵舎に帰り食事をする。（ただし、馬検査のある時は、眼、鼻、肛門まで濡れ布で拭いてやる。）馬運動や訓練で信太山を、野砲や弾薬車を引張ったりして駆け廻り、又野砲の操縦や発射訓練などの外、機械体操、走り巾跳び、箱馬飛び、高跳び運動等行う。たまたま愛馬クラブからの献上馬、咬む蹴るあと引き等のくせのあるあばれ馬の「献号」に乗って走れば、反動のない乗心地のすごく良い馬でした。又行軍で、六頭立てで、野砲を引張り左側の三頭にだけ兵が乗り、右側の馬をそれぞれ馱して走る。兵庫県の陸軍演習場へ行き実弾の発射訓練に

も行った。

昭和十四年十二月、宇品第一船舶輸送司令部へ転属を命ぜられ、深夜蚕の棚の輸送船で宇品港を出港し、行き先は知らされず、玄界灘の波にゆられて、ごろごろ轉がり、隅に吊るされたバケツに嘔吐物を吐き吐きしながら、やや落ち着いてきた時、「全員上陸」の声に飛び起きて港に上ると、ここは（中支）中国の揚子江河口上海港で、昭和十五年の元日の朝であった。貨物船や漁船が見渡す限り群れ浮かんでいる中に、美しい病院船が、昇る朝日に映える日の丸の旗と、赤十字の旗を掲げて、「紀元は二千六百年」のメドレーが流れている甲板上で、「白衣の天使」日赤の従軍看護婦三人が、羽根突きをしていた光景は、当時二十三才の青春兵士の眼に焼きついている。（毎年、年賀状を出す時期になると思い出します。）ディックミネの唄った流行歌の「上海ブルース」にある名高いガーデンブリッジを渡り、伊都郡出身の亀田主計中尉に従属して、フランス租界内にある日本の台湾銀行で、電報為替を軍票に交換して、上海街の会社で、日本酒、ビール、煙草（スペアー、コンパス、朝日等）、羊かん（梱包は木箱で荒縄をかけてある）を購入して、苦力を使って、揚子江を溯る空の病院船に積み込み、任地の九江第三碇泊場司令部へ送り届けておき、部隊は上海から南京までは軍用列車で行く、南京城外の田園で、テント野営した。夜間、外出許可を得て、市内の映画館へ映画を三人友達で見に行った。映画は、高峰三枝子の純情二重奏であった。門限時刻が迫って来ても映画は面白くまだまだ終わらない。門限時刻に遅れると重倉倉で監獄入りです。後髪引かれる想いで、時刻ぎりぎりテントに潜り込んだ記憶は今も消えない。

南京から九江までは輸送船で、途中沿岸からは、ゲリラ部隊の銃撃をさげ乍ら溯った。

昭和十五年七月、九江第三碇泊場司令部で勤務中、突然重症脚気（ビタミン欠乏症）に襲われ、足腰が立たず、宿舎で這い廻っていた時の事、陸軍少佐寒川部隊長の巡視があり、足の立たない姿を見た寒川部隊長は、後で側近に「ひどいな…一考する」とのお言葉があったと聞きました。水汲みや風呂（ドラム缶）焚き要員として、雇っていた中国人の二人の青年（太郎、次郎と名付け、十八才と十七才）が、毎日交替で揚子江からシジミ貝を一握り拾って来てくれて、味噌汁を焚き頂いたお蔭で、何時の間にか全治し忘れてしまって九月には、蔣介石の別荘のある廬山へ、外出許可を貰って昇り見学して来ました。

昭和十六年一月になって、突然内地帰還命令を受け、小生一人見知らぬ部隊に編入され乗船して長崎港に上陸し、大阪の三七部隊に帰り、専ら召集解除の命令を待っていた。二月下旬のある日突然、「中嶋父死すの

電報が来たから、今からすぐ帰れ、外泊許可証を渡すから、明日午後五時までに帰って来い。」との週番兵の伝達で早速帰宅準備をして、阪和線の天王寺駅から、当時四十五分で東和歌山駅へ、家に帰ると母親が、「布引の叔父さんが、大阪へ大根をトラックで運送中雄の山峠で雪のためスリップして転落し、亡くなった」との事、電報を見せて頂けばよかったが、電報は本部で受付し保管され、週番兵が伝達してくれた。電報は親族数軒に宛てた同文電報で、布引の辻本芳三から私宛で、本分は「チチシス、シキアスニジ、ヨシゾウ」とあり私宛ですが、私の父でないことが分るが、大変な大間違いであった。

四月になってやっと、召集解除の命令が出て帰宅し、職場に復帰することが出来ました。

また、昭和二十年三月十四日夕刻、(大阪大空襲の翌日であったと思う、再び召集令状(赤紙)を役場の用務員さんから受取り、中部第二十三部隊に入隊し、夜間トラックで、名古屋の清州飛行場まで行き、燕第二百三十九飛行場大隊編成され、貨物自動車と共に貨車二十台を連ねて、(行き先は知らされず)着いた所は、熊本駅、熊本県飽託郡飽託村の山、防空壕の中の大隊本部で勤務した。熊本建軍飛行場からは五月二十四日夕刻、特別攻撃隊、義烈空挺隊、隊長奥山道郎が、沖縄に向けて、九七式重爆撃機十二機が飛び立った。五月上旬のこと、部隊長鈴木基治大尉(当時二十八才)が郷里仙台から、お嫁さんを貰って結婚式を熊本市で挙行し、紅白の饅頭を貰って旬日後、十泊十一日の仙台市出張の命令を受けた。部隊長の御両親と、お嫁さんの御両親の二組の老夫婦を、熊本市から仙台市までお送りする目的である。B二十九の空襲や警報のまにまに走る列車でお送りし、途中、東京都吉祥寺の航空本部へ、部隊長とお嫁さんの結婚届を提出する間、上野駅で四人を休ませおき、やっと無事仙台市のご親戚のお家までお送り申し上げ、無事任務を果たすことが出来まして、ほっとしました。帰途、暁部隊の警備する松島の瑞巖寺へお参りすることが出来ました。丁度十日間でした。

また八月十五日の重大放送は、防空壕の中で雑音がひどくて良く分らなかったが、日本がポツダム宣言を受諾したと云う事の天皇陛下のお言葉、即ち玉音放送であって、びっくりしました。鈴木部隊長は防空壕の奥で、土壁に向かってピストル三発を発射した。またその後勲章等を焼却していたのを覚えています。昭和二十年三月から八月末までの半年間勤務した防空壕内生活で、風呂は近くの農家へ隔日又は三日間位で、三重県出身の勝山源太郎軍曹らと共に、二三人で入らせてもらいに行きました。農家の風呂で馬小屋のすぐ隣にあり、馬はいつも長い顔を出して、私共を不思議そう

に見ていました。帰り際に言葉の礼に行くと、おかみさんは「娘一人と、仔馬二頭、よろしかったら連れて帰って下さい」と、冗談まじりに云って笑って送ってくれました姿は、今も忘れることはありません。

八月二十五日になって、部隊解散命令が出て、和歌山県出身の者数名と一緒に帰ろうと話し合っ、トラック一台を貰い、米、ガソリン、毛布等を積み込み、門司まで来たが、関門トンネルの通行許可されず、止むなく谷山君らが、港の揮帆船を探して交渉し、ガソリンドラム缶一本と、米二袋で、トラックもろとも五名を関門海峡を渡してもらった。原爆の投下されたと云う広島では、トラックの上で毛布をかぶって一夜を、又岡山では「めし」と大書した看板のある木賃宿で一夜を過ごして、北島橋を渡って和歌山市に入ると、一面焼野原で電線はすべて道路を這っていた、田中町付近に来ると、昔のままの家が残っていたのを覚えています。やっと伊太祈曾神社の鳥居前まで来て、そこで解散し、家へ帰ることが出来ました。トラックは九度山の男が乗って帰りましたが、一週間程して引取られたと聞きました。

なお軍隊に関係したことで、忘れることのない一こまがあります。それは昭和十一年二月二十六日早朝、大雪の帝都東京で起きた事件、軟弱外交に反抗して皇軍将兵が起した反乱、即ち二二六事件である。「今からでも遅くはない。天皇旗の下に帰れ」と云う明言を発して反乱軍将兵を鎮圧した、戒厳司令官陸軍中将香椎浩平の名である。この二二六事件から八年後の昭和十九年八月十九日に、私の息子長男が誕生した。父にとっては可愛い我が家の初孫である。直ちに「浩平」と命名した。私も同意して、出生届を提出した。ところが十一月二十一日、中嶋浩平は消化不良の病気で僅か百日足らずで、この世を去ってしまった。哀しみに耐えかねていたたまれず私は姓名学の研究を始めたのである。

これも忘れることのない「我が人生の一こま」である。

中支九江での中国人太郎、次郎の二青年は、夫々歯科医師、歯科技工師を希望していたのを覚えているが、果たして今頃どんな生活をしているか、お会いして、六十八年前のシジミ貝のお礼を申し上げたいと思う今日此頃である。 T6.4.12生





# 支部行事風景



平成20年9月12日 支部研修会



平成20年10月1日 支部ビデオ研修会



平成20年10月15日 支部旅行



平成20年10月21日 支部研修会



平成20年12月3日 支部ビデオ研修会



平成20年12月11日 支部研修会



平成20年12月11日 支部意見交換会



平成20年12月19日 租税教育打ち合わせ

新入会員等紹介 (敬称略)

入会



クリス マサオ  
栗栖 昌夫  
平成20年9月21日  
和歌山市湊通丁北1丁目1番  
シティハイツ扇之芝1階101号



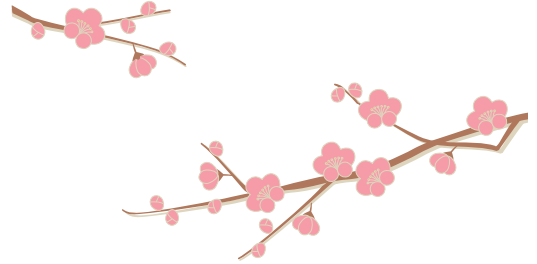
カワバタ ヨシユキ  
川端 良幸  
平成20年10月23日  
和歌山市畑屋敷雁木丁21番地  
宮脇康成税理士事務所



ナガシマ リュウキ  
永島 竜貴  
平成20年11月19日  
和歌山市布引608番地  
鎌田富士夫税理士事務所

退会

木村 健而 (死亡)  
平成20年11月28日



会 員 数

平成20年12月20日現在 239名(社)

編集後記

この数ヶ月間に、世界的な金融危機が勃発し、世界が経済危機に陥った。

国外では、製造業のグローバル企業により公的資金の要請が試みられ、また、主要国においては経済対策が相当規模で実施されようとしている。

国内でも、円高や消費の冷え込みによる实体经济への影響で雇用環境の悪化が進んでおり、今後日本経済の動向が気になるところです。

さて、「五十五万石」第27号も皆様方のご協力に

よりまして、無事に発行することができました。心より感謝いたします。

本年が皆様方にとってよい年でありますよう心からお祈り申し上げます。

広報委員

石川、岡野、水城

